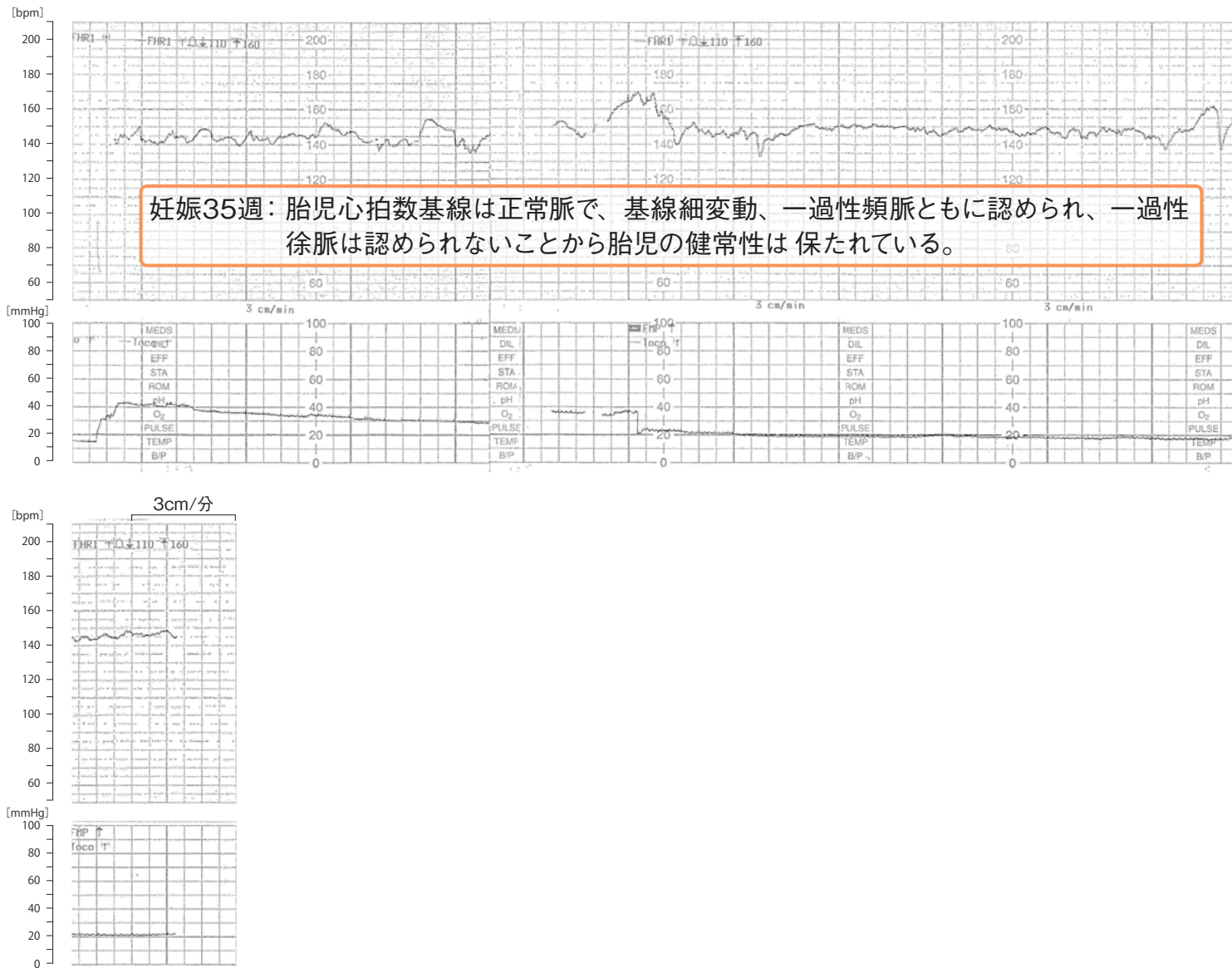
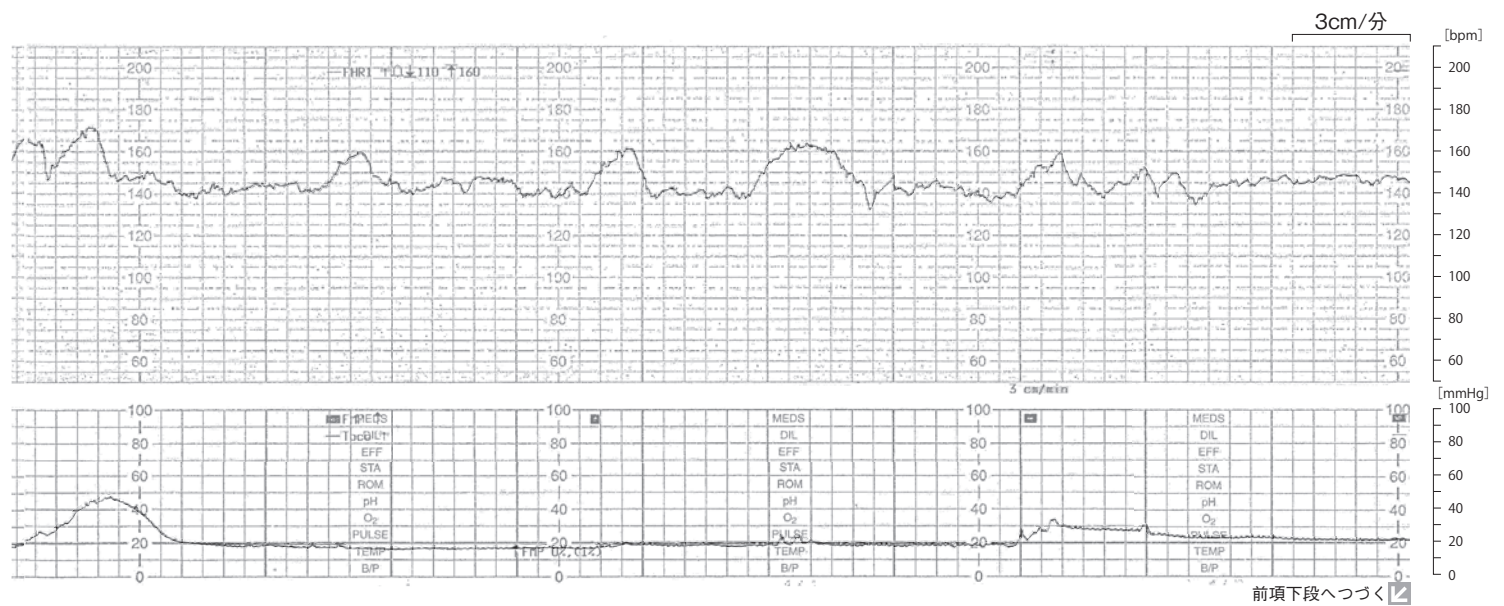
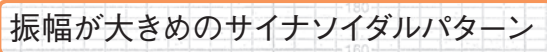
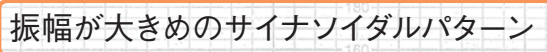


事例の概要

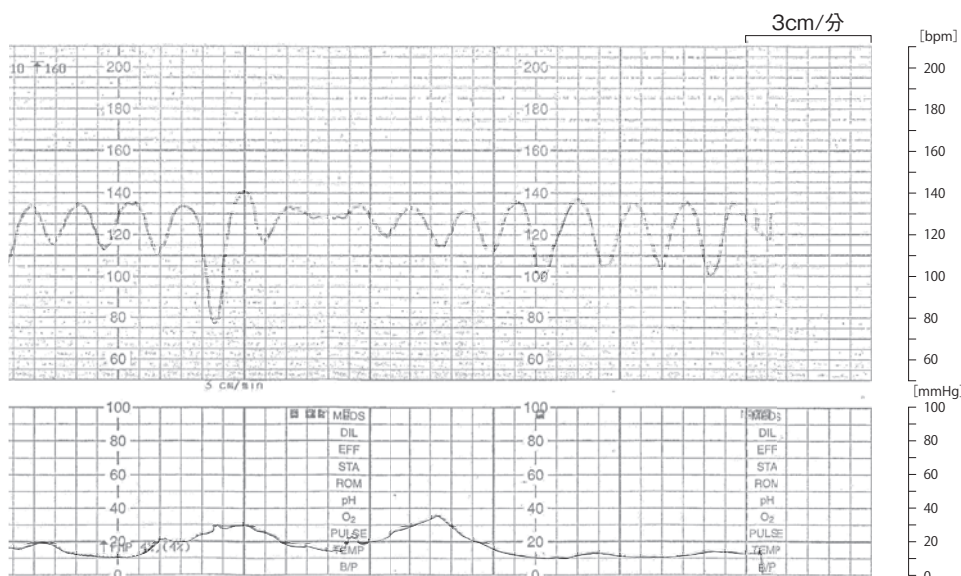
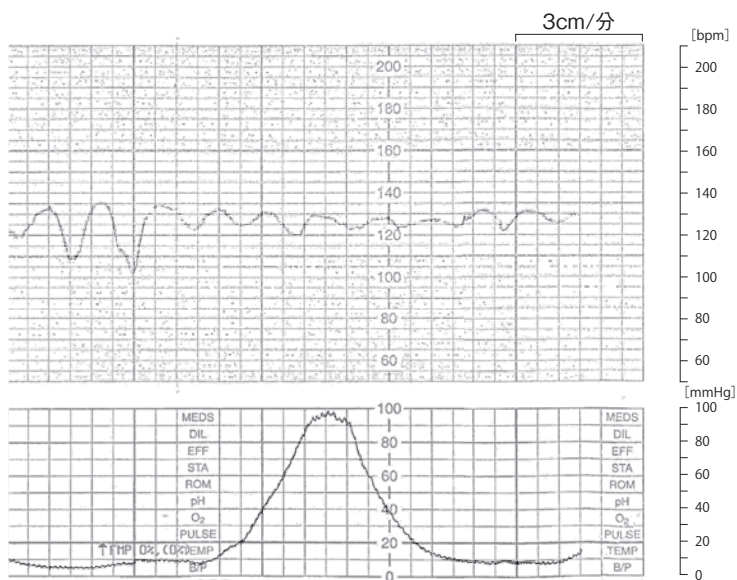
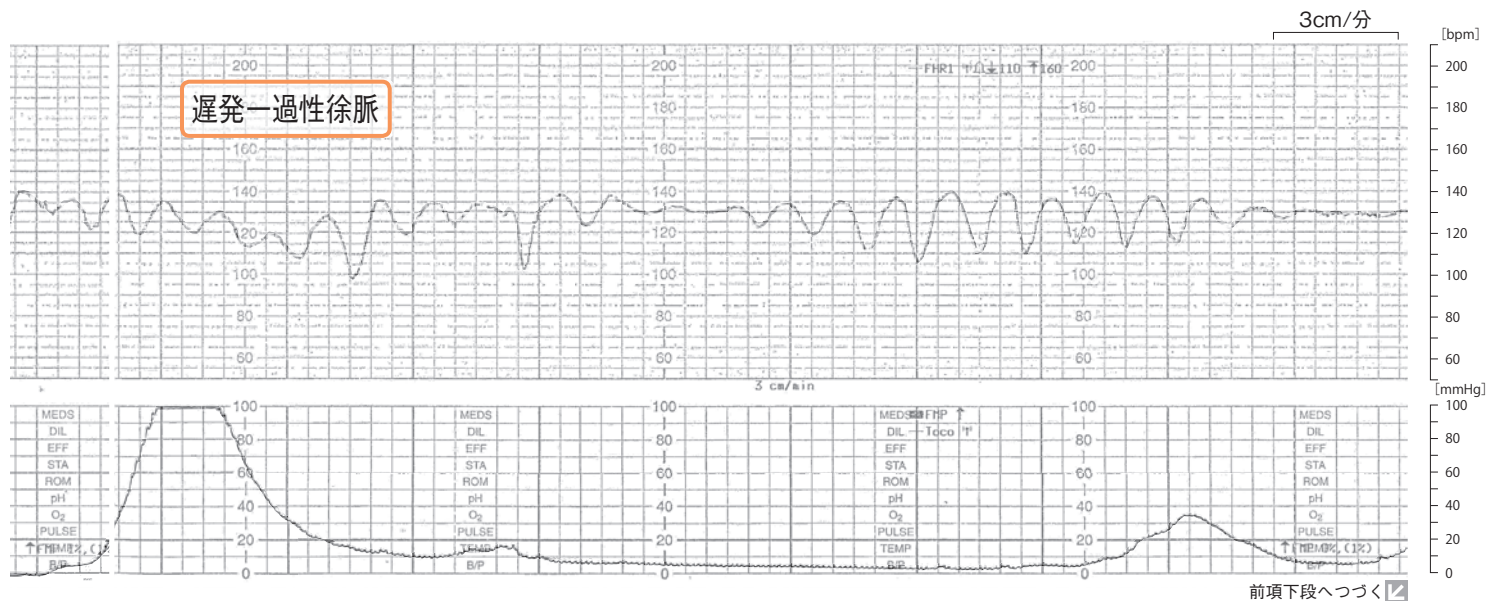
- 分娩歴：1回経産婦
- 妊娠経過：妊娠35週の妊婦健診でノンストレステスト（NST）はリアクティブ
その後の妊婦健診でも異常なし
- 分娩経過：妊娠40週の妊婦健診でNSTを実施したところサイナソイダルパターンが認められたため入院、
緊急帝王切開術実施







遅発一過性徐脈

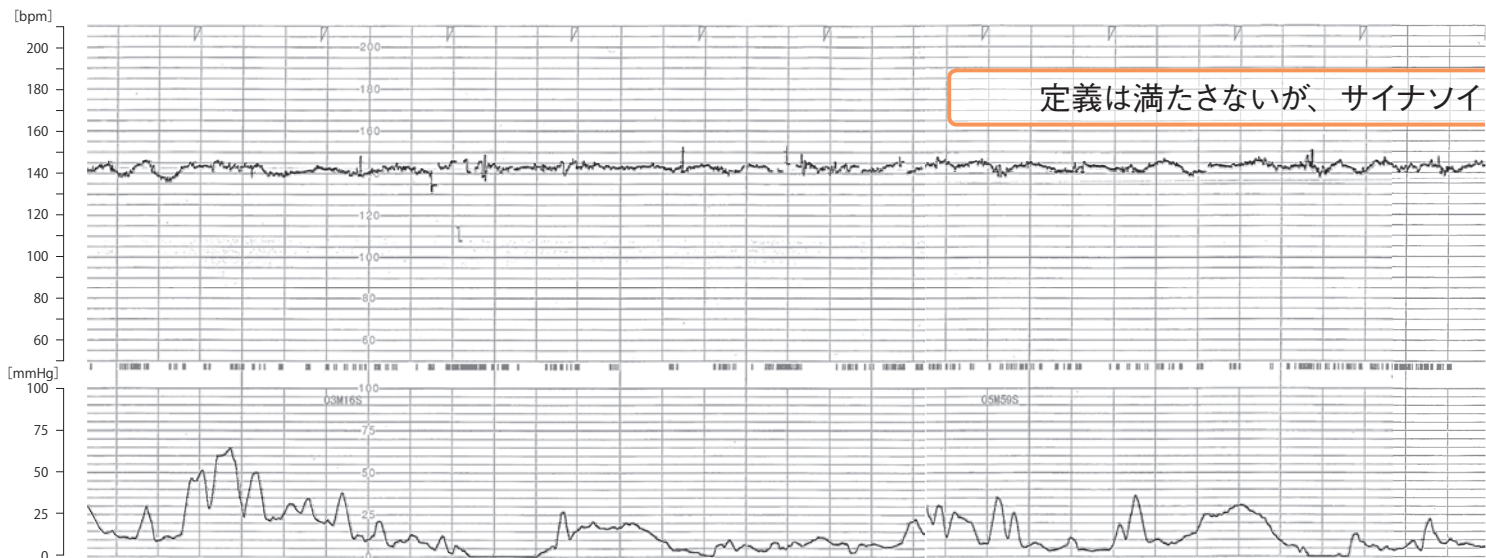
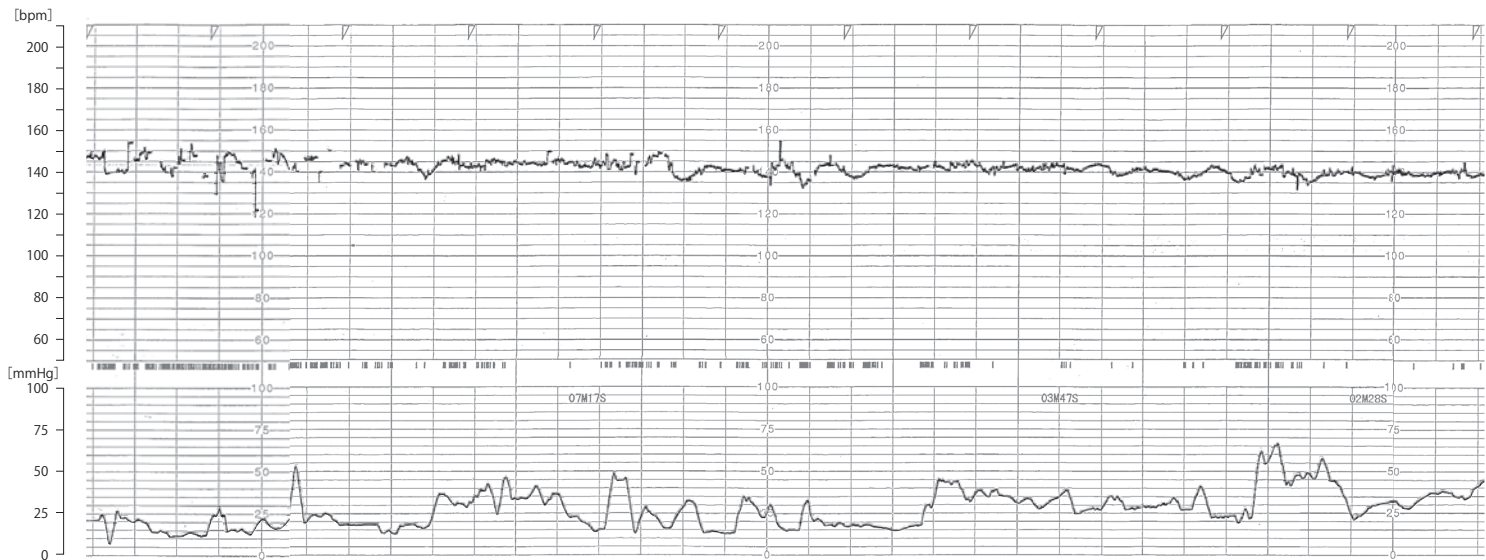
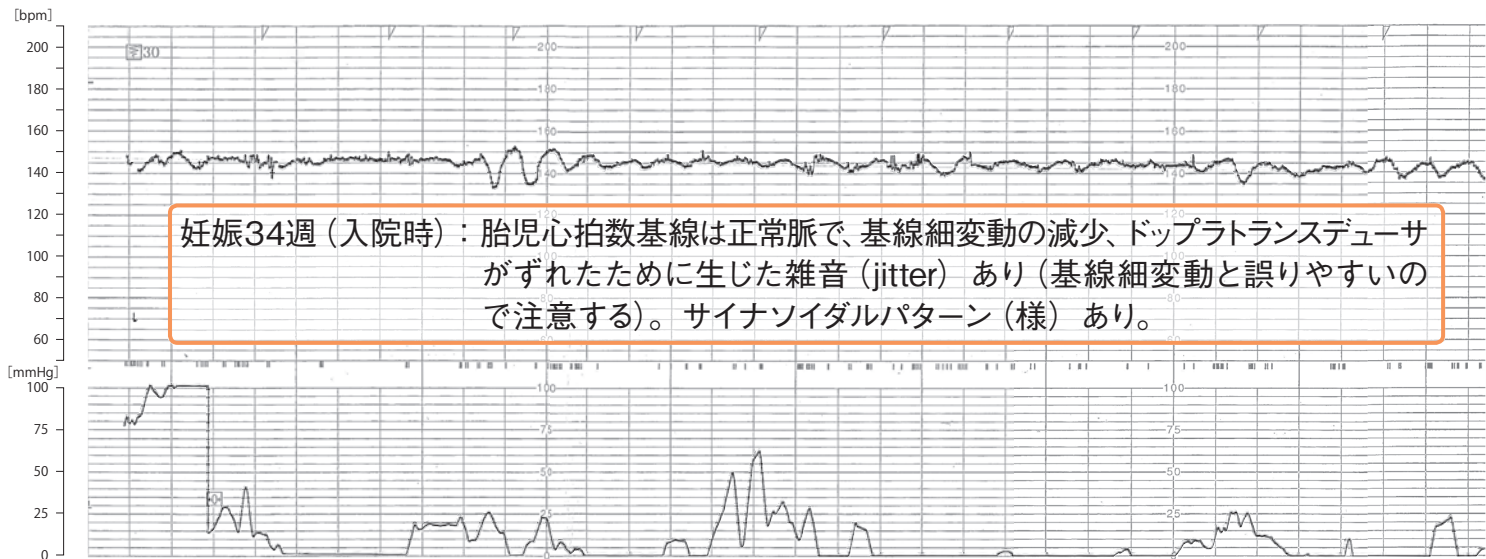


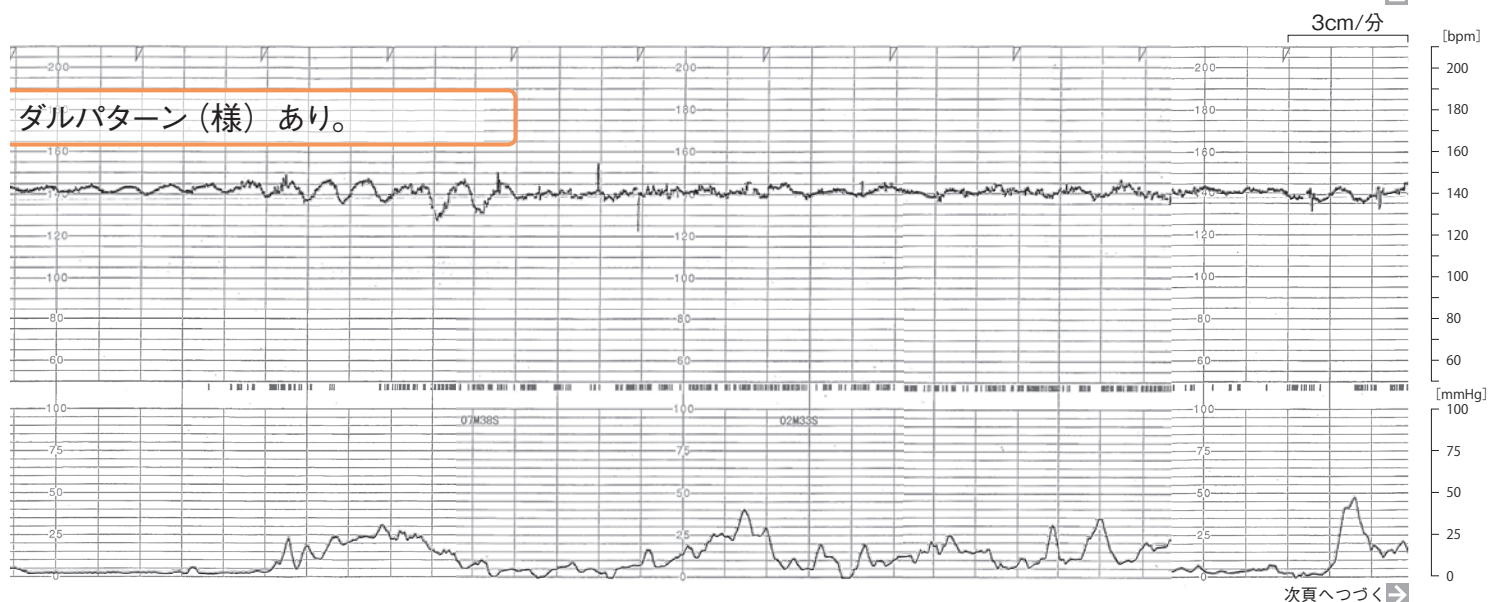
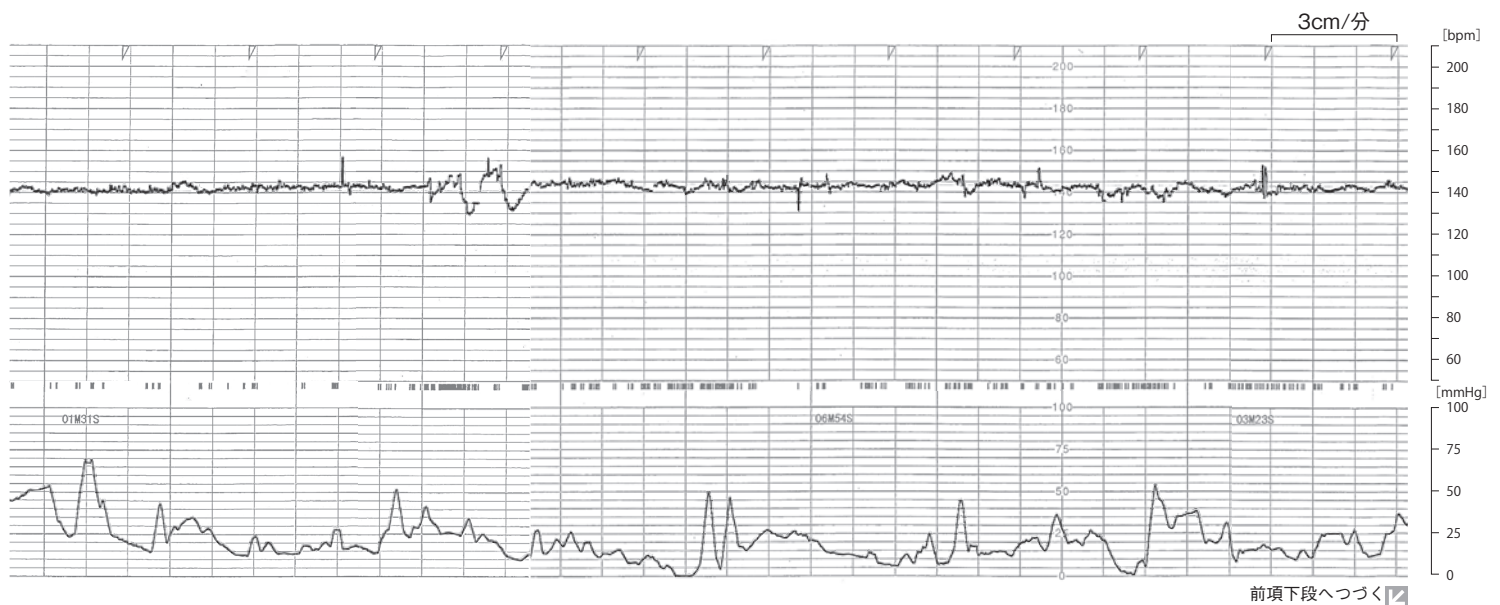
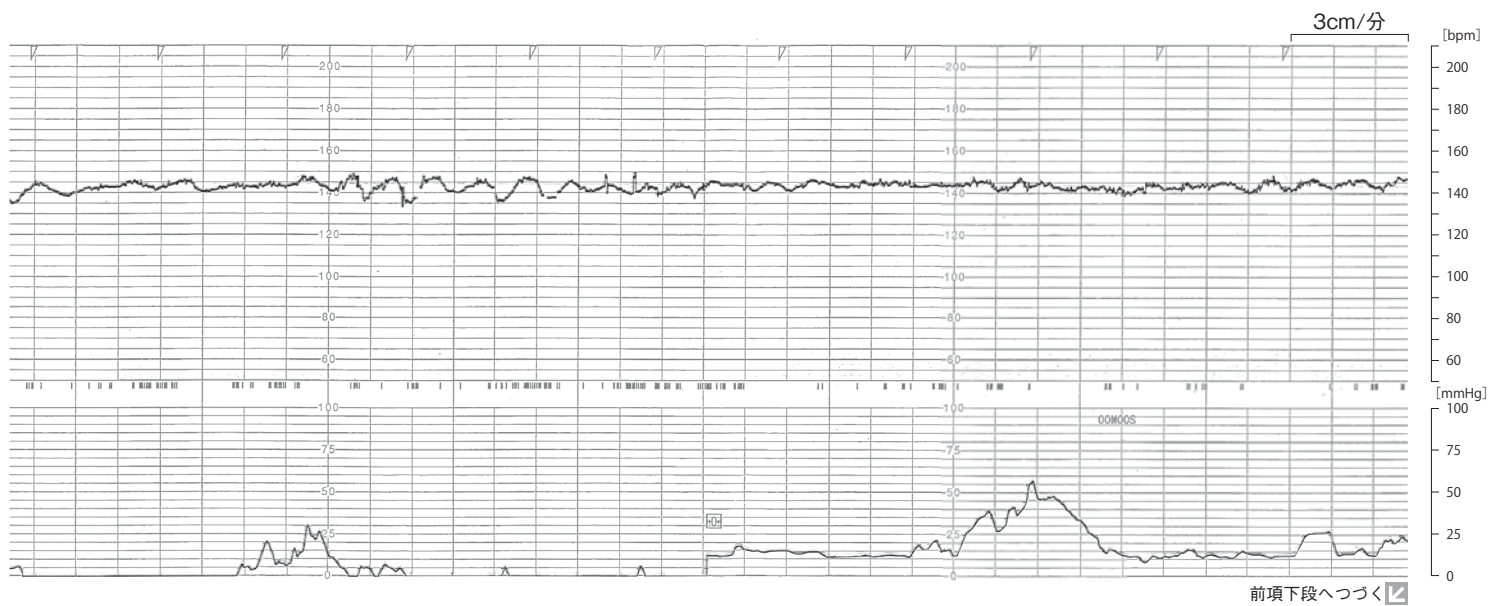
分娩情報

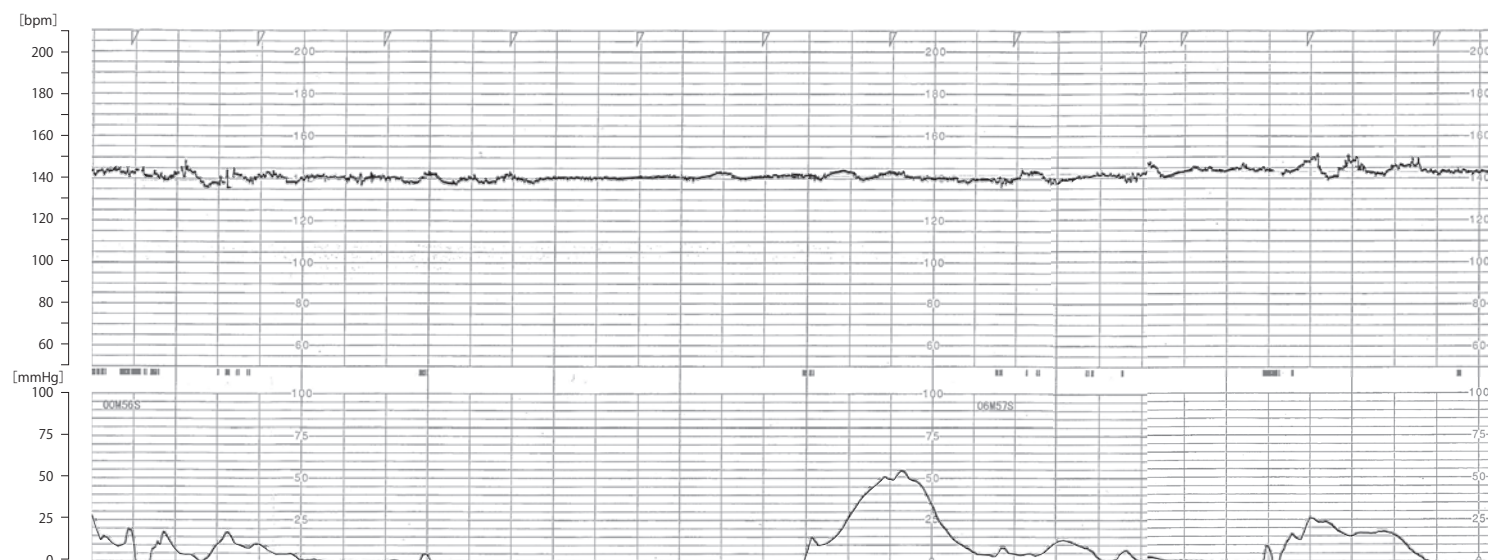
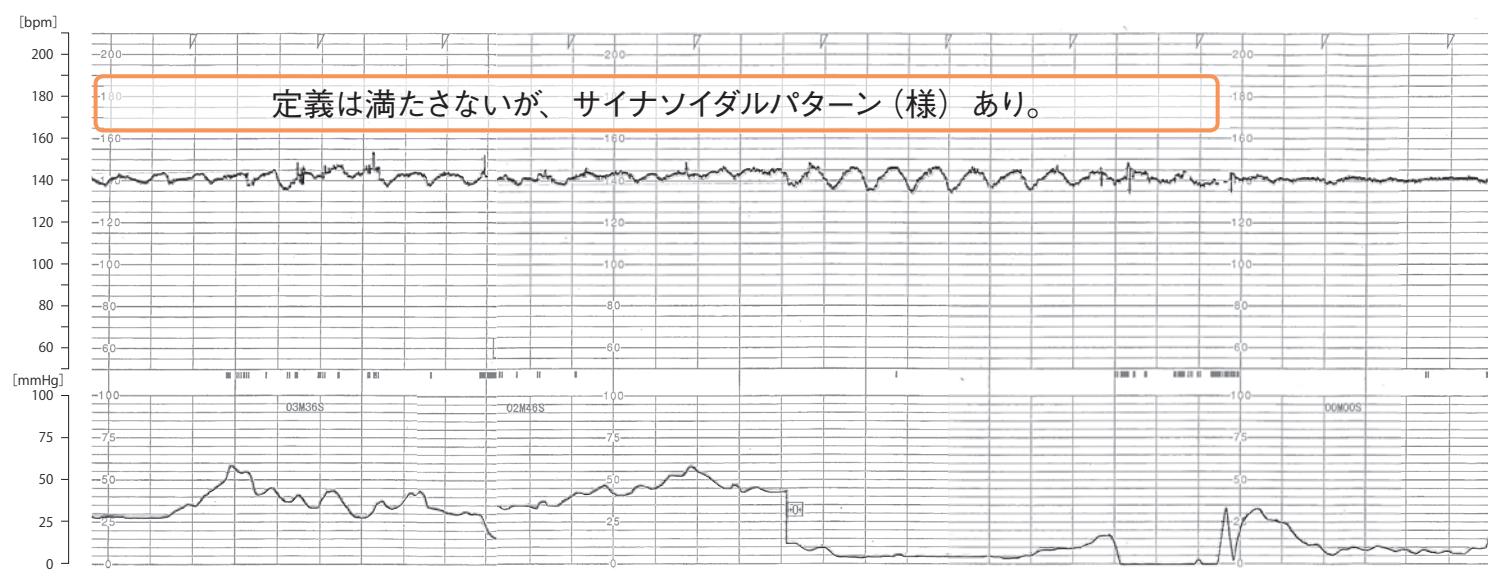
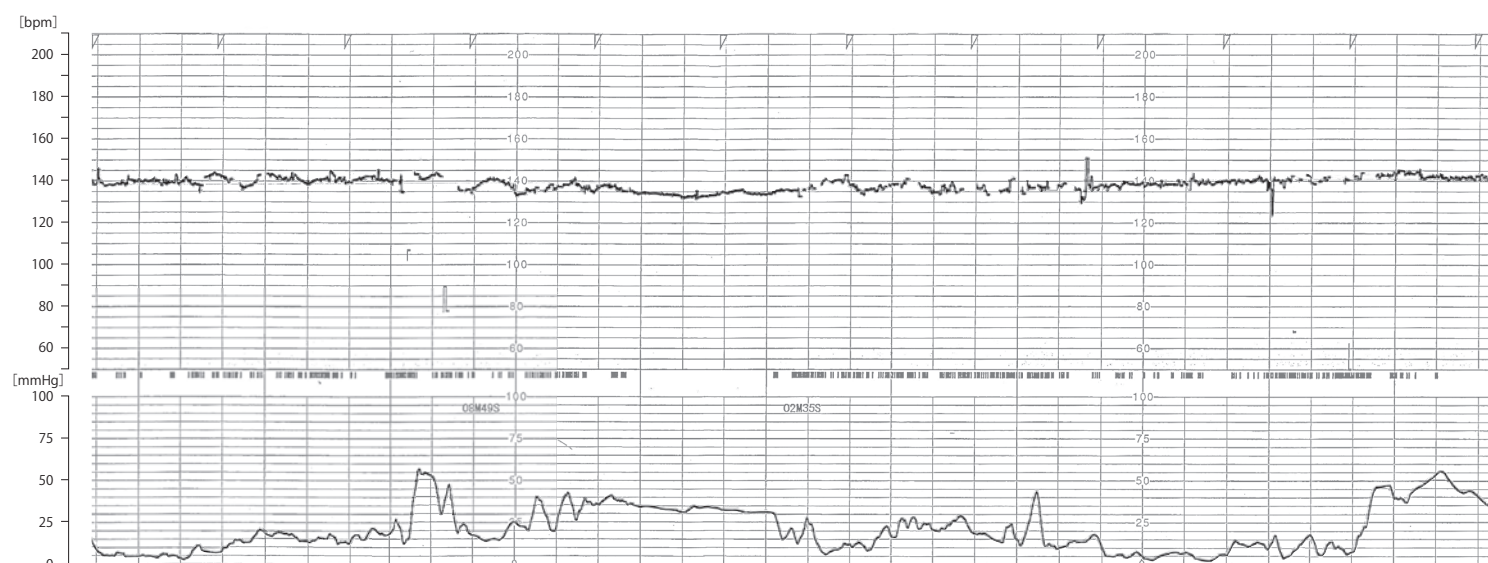
- 出生時の情報：
臍帯動脈血ガス分析値 pH7.1台、
BE-7mmol/L台、ヘモグロビン2.0g/dL、
ヘマトクリット7%
アプガースコア 生後1分3点
(心拍1点、筋緊張1点、反射1点)
生後5分7点
(心拍2点、呼吸2点、筋緊張1点、
反射1点、皮膚色1点)
- 妊産婦産褥血液検査：
胎児ヘモグロビン1.2%、
αフェトプロテイン4202ng/mL

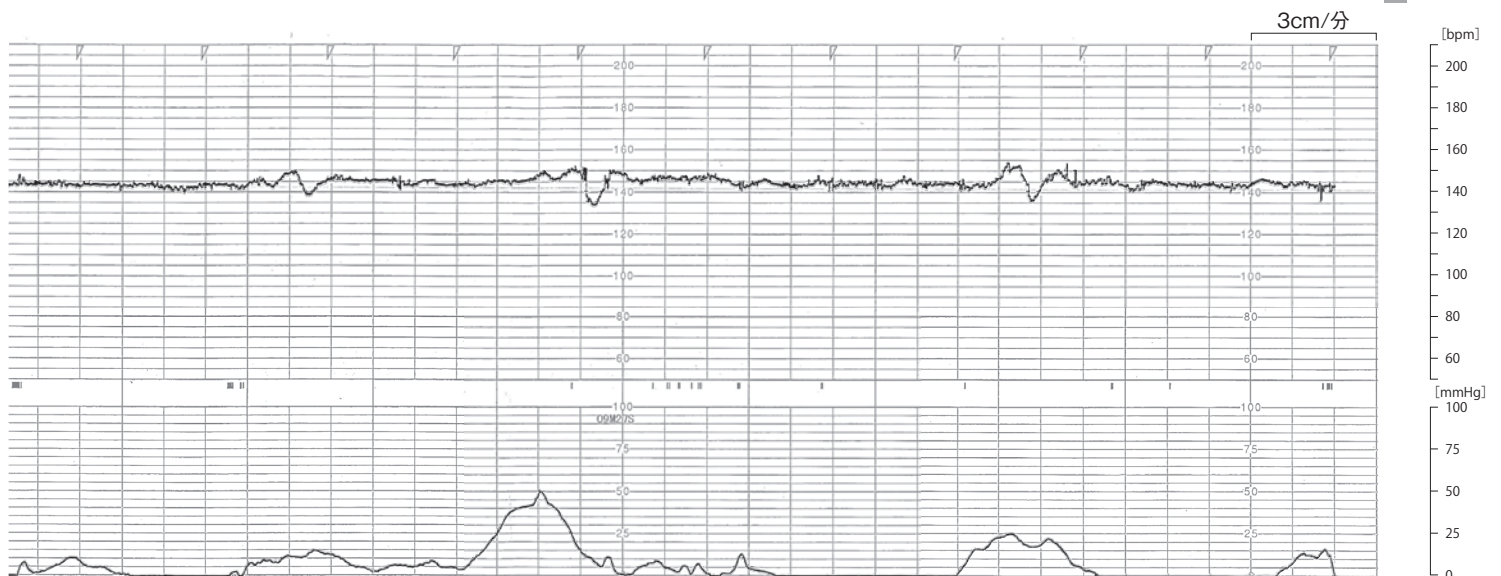
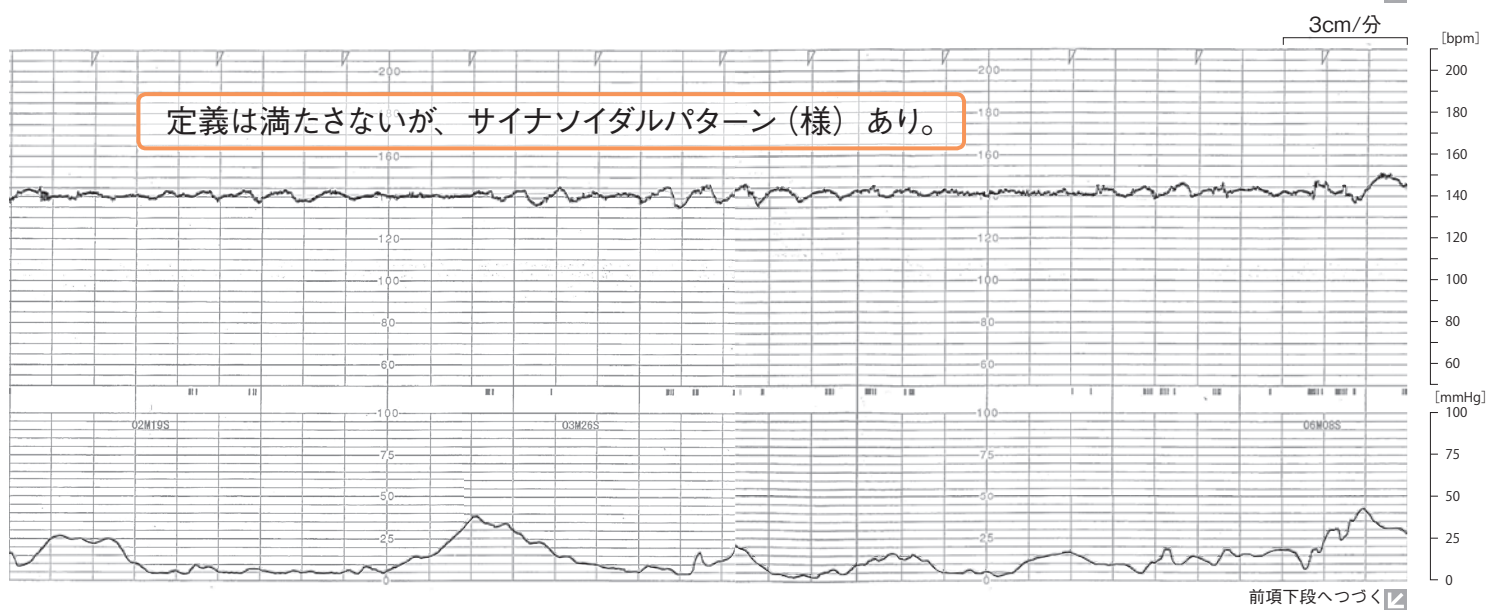
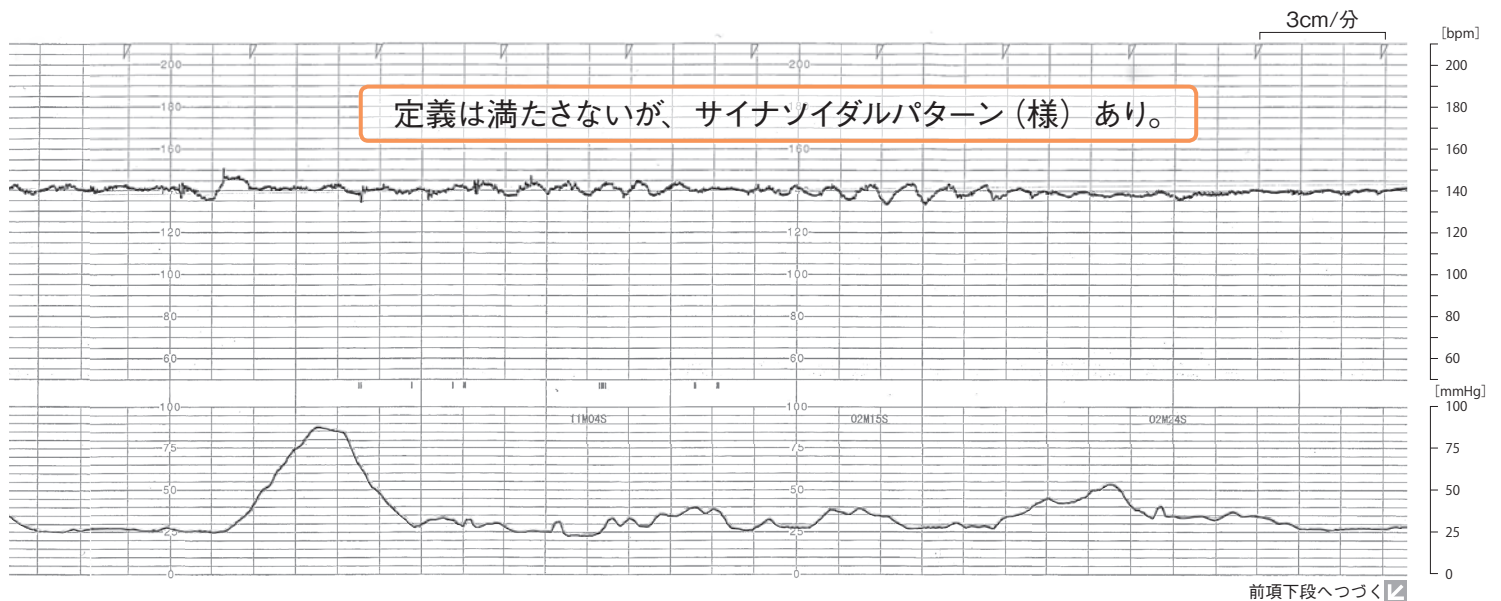
事例の概要

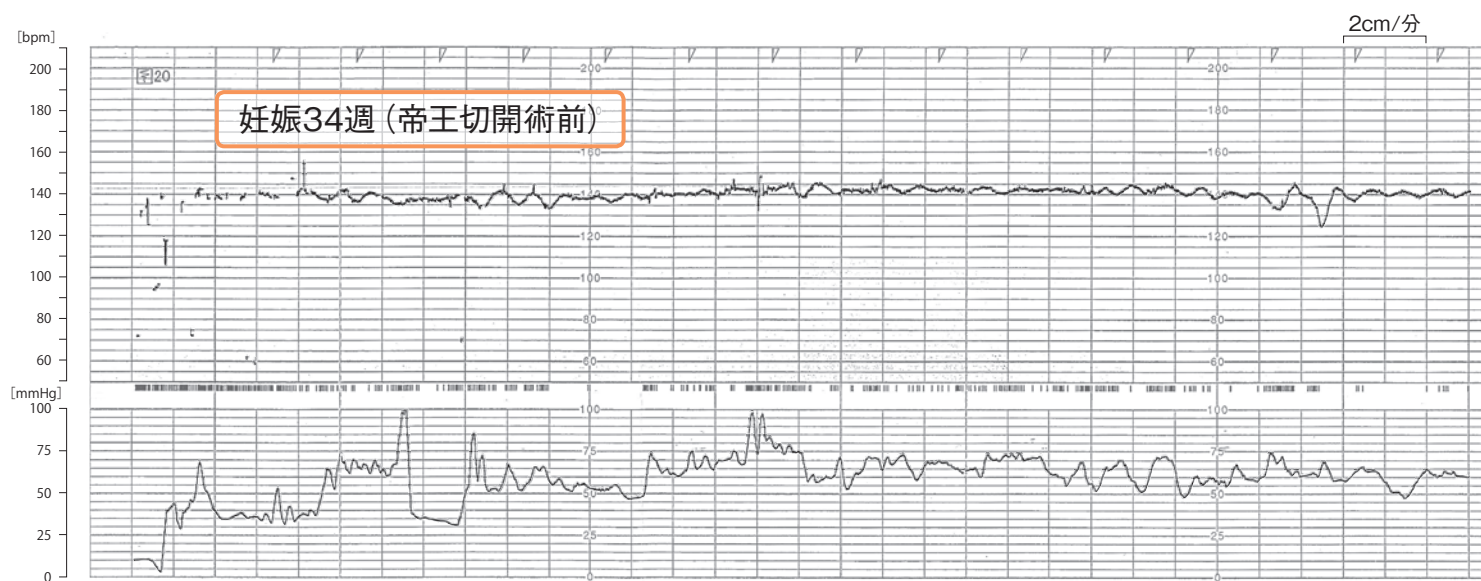
- 分娩歴：1回経産婦
- 妊娠経過：特記事項なし
- 分娩経過：妊娠34週、前日夜より胎動なくなったことを自覚し、当該分娩機関受診
胎児心拍数陣痛図異常あり、慢性的な胎児機能不全のため入院、帝王切開術実施











分娩情報

● 出生時の情報：

臍帯静脈血ガス分析値 pH7.0台、BE-14mmol/L台、ヘモグロビン1.1g/dL、ヘマトクリット3.7%

アプガースコア 生後1分1点（心拍1点）

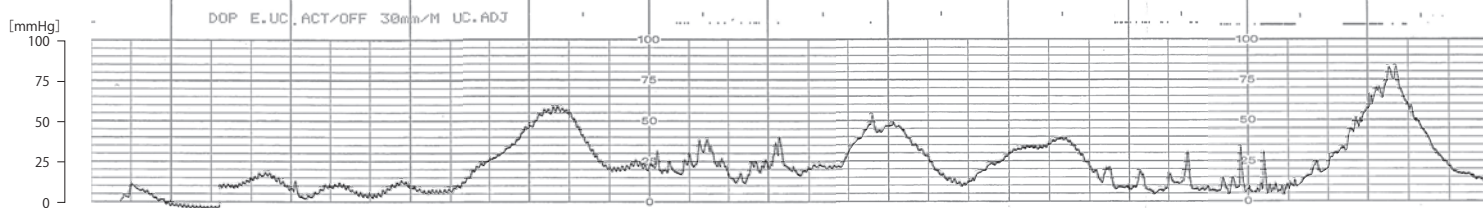
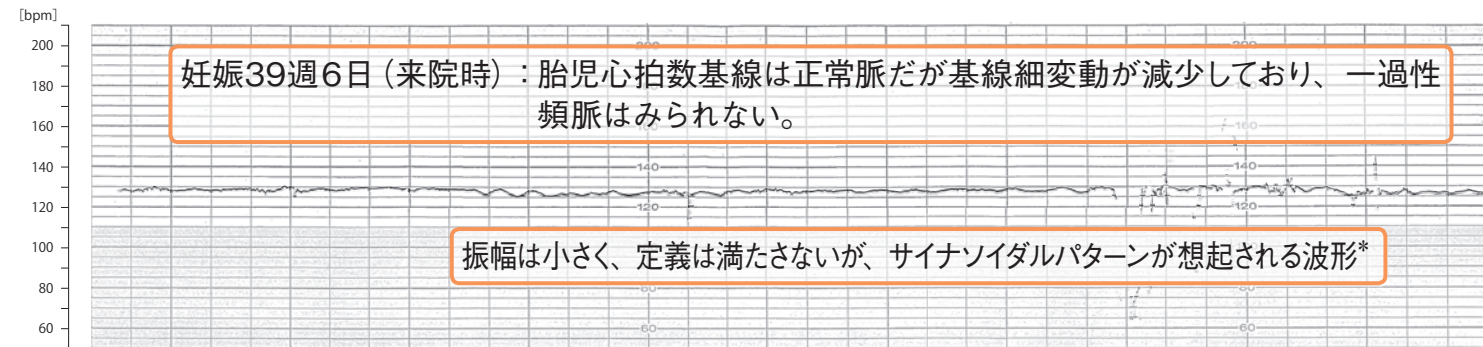
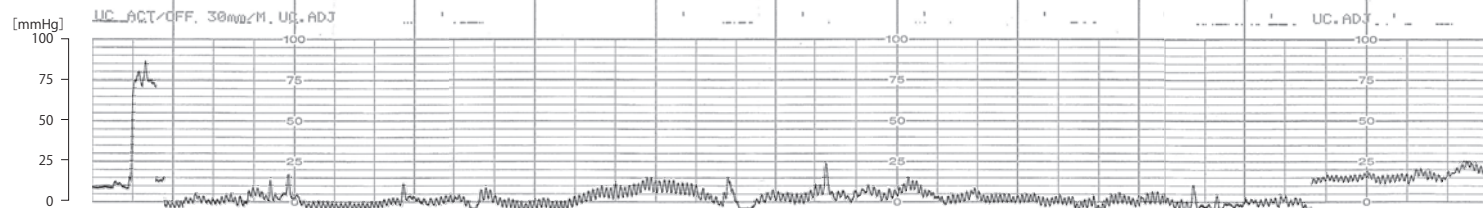
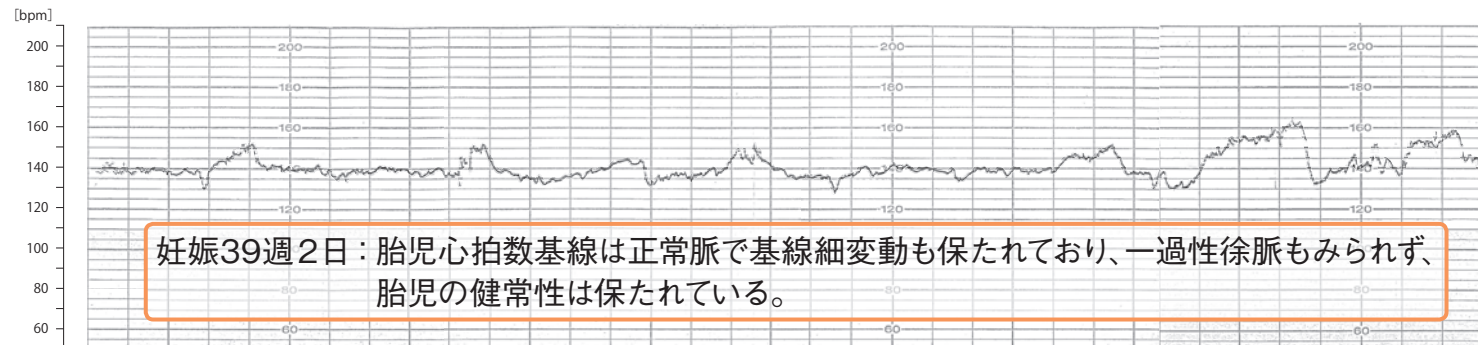
生後5分2点（心拍2点）

● 妊産婦産褥血液検査：

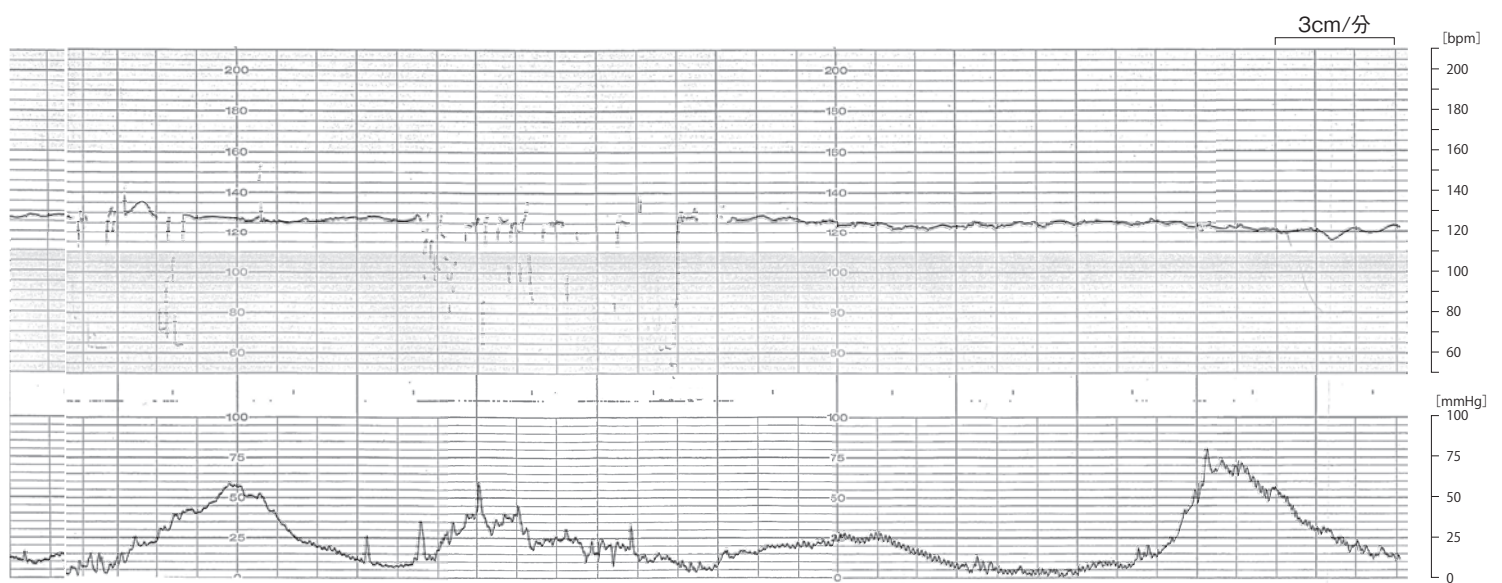
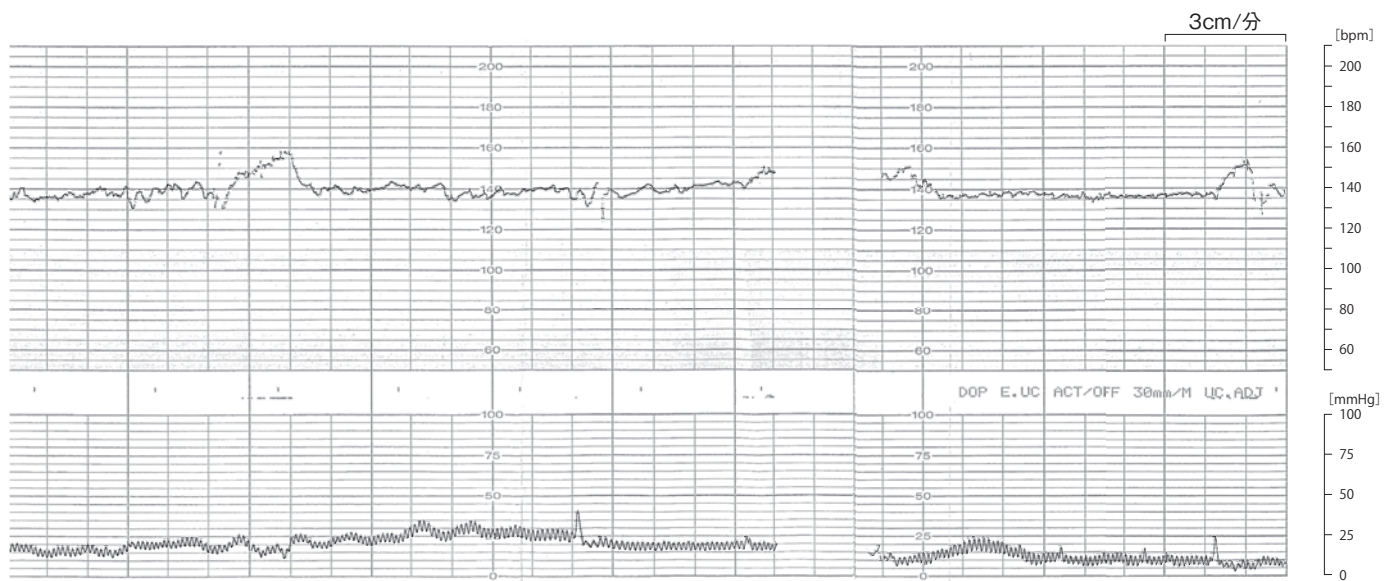
胎児ヘモグロビン3.2%、 α フェトプロテイン実施なし

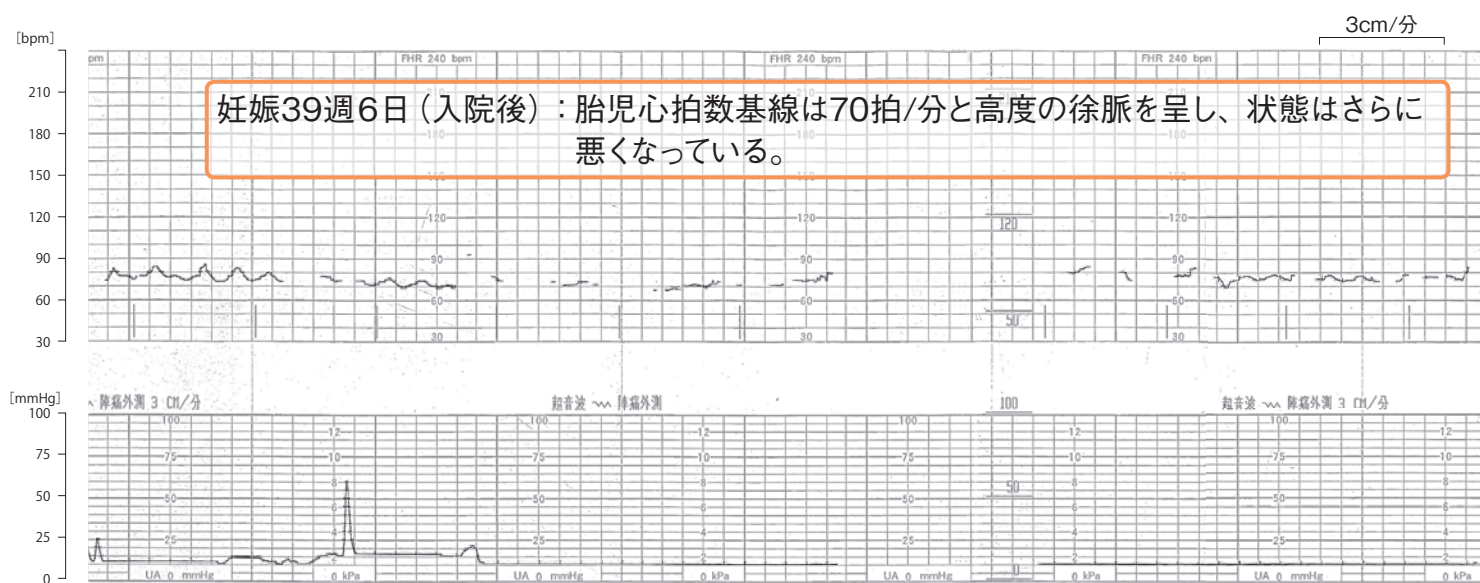
事例の概要

- 分娩歴：初産婦
- 妊娠経過：特記事項なし
- 分娩経過：妊娠39週6日、前日夜から胎動減少を自覚し、当該分娩機関受診
胎児心拍数基線正常脈、基線細変動減少、一過性頻脈なし、オキシシンチャレンジテスト目的にて入院
入院後、徐脈（70拍/分）のため、緊急帝王切開術実施



*今回の分析対象事例においては、脳性麻痺となった胎児貧血の胎児心拍数陣痛図には典型的なサイナソイダルパターンは少なく、むしろ一般的なNRFS (non-reassuring fetal status (胎児機能不全)) の胎児心拍数陣痛図が多かった。典型的なサイナソイダルパターンが出ていなくてもNRFSパターンであれば何らかのback up testが必要である。現時点で、「定義を満たさないが、サイナソイダルパターンが想起される波形」の臨床的意義は不明であるが、母児間輸血症候群の診断に関する研究が進むことを期待してこの胎児心拍数陣痛図を掲載した。





分娩情報

- 出生時の情報：
臍帯動脈血ガス分析値 pH6.7台、BE-28mmol/L台
アプガースコア 生後1分2点（心拍2点）
生後5分2点（心拍2点）
- 新生児初回血液検査：
ヘモグロビン3.4g/dL、ヘマトクリット10.4%
- 妊産婦産褥血液検査：
胎児ヘモグロビン6.9%、 α フェトプロテイン3062.9ng/mL